

### 令和8年度学校経営計画表

#### 1 学校の現況

学校番号	特 11		学校名	県立内原特別支援学校										学校長名	阿久津 裕一									
副校長名							教頭名	齊藤 昌晴				事務（室）長名	関 明美											
教職員数	教 諭	7	4	養 護 教 諭	2	常 勤 講 師	7	非 常 勤 講 師	1	実 習 助 手	2	寄 宿 舎 指 導 員	0	事 務 職 員	3	技 術 職 員 等	1	0	計	1	0	1	0	1
幼児・ 児童・ 生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		小計		合計	合計 学級数							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女									
	幼稚部							-	-	-	-	-	-											
	小学部	13	4	11	5	7	3	18	3	18	6	5	7	72	28	100	21							
	中学部	5	5	11	4	7	0	-	-	-	-	-	-	23	9	32	10							
	高等部	14	5	5	5	4	4	-	-	-	-	-	-	23	14	37	7							
	専攻科					-	-	-	-	-	-	-	-											
																	118	51	169	38				

#### 2 目指す学校像

- ◆安全安心な環境のもと、子どもを主語にして学びあえる学校
- ◆みんなが子どもの可能性を信じ、学び続ける学校
- ◆保護者・地域の人に開かれ、みんなで作る学校
- ◆子ども・保護者・地域の人・教職員みんなが Well-Being になる学校

### 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰一人取り残さない教育」を最上位の目標とし、安全安心で主体的に学べる環境づくりに努めている。</li> <li>・校務分掌組織の見直しによる新たな部、係の創設。各部各係の意図と職務内容を明確にし、主体的に課題解決に関わる姿勢につなげている。</li> <li>・教職員が主体的に対話する文化が浸透したことで、自らの学びや働き方を見直すきっかけとなり、組織内での当事者意識と対等な関係性が高まっている。</li> <li>・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入により、地域とともに学校の未来を考える「未来志向の熟議」を取れ入れ、Well-Being や理想の学校像について議論ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現</li> <li>・主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成を継続</li> <li>・教職員が相互に尊重し合い、学び合う職場環境づくりの継続</li> <li>・学校運営協議会での熟議や活動に直接参加していない教職員・保護者・児童生徒との間の理解度や関心の温度差を埋めること</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画を基に、子どもの実態や状況を考慮し、主体性を引き出し対話的に学ぶ時間を確保した単元計画を作成・実践する「子どもが主語」の授業実践が浸透しつつある。</li> <li>・子どもの様子や背景を学年等で把握し、子どもが生き生き活動する学習内容やグルーピングを工夫し、安全安心で主体的に学べる環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>・生徒が主体的に作業を行うことができるよう、実態に応じた作業計画の設定や環境の整備を行っている。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの実態や状況に合わせ、タブレット端末等の効果的な活用の工夫が見られ、不登校生徒への学習手段やコミュニケーションツールとしても活用されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や会議を通じて教職員自ら主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成を継続</li> <li>・対話的解決とチーム担任制による、枠にはまらない子への支援</li> <li>・子どもが主体的に進める進路学習の充実</li> <li>・クラウド上の教材共有の仕組みの強化や児童生徒の実態に合わせた情報モラル・セキュリティ教育の充実</li> </ul>

### 4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全安心な教育環境のもと、対話をもとに主体的な学びの充実。</li> <li>2 子どもの可能性を信じ、ICT を効果的に活用し、選択肢を増やすことにチャレンジする。</li> <li>3 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を中心に校内での学びあい、地域での学びあいの充実。</li> <li>4 最上位の目的・目標を合意した上でみんなが学校をつくるという当事者意識をもち学びを楽しむ。</li> </ol>
--

5 本年度の重点目標 スローガン：「愛され、大切にされる Well-Being な学校づくり」

重点項目	重点目標
<p>1 安全安心な教育環境の維持と心身共に健康な児童生徒の育成</p>	<p>① 人権意識を高め、チーム担任制を意識し、対話を基本に子どもが信頼して安心して学べる学校づくりを目指す。            ② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実を図る。            ③ 様々な災害を想定し、環境面の充実と児童生徒が主体的に取り組む防災教育の推進を図る。            ④ 保健・食育(摂食指導、食物アレルギー等の対応を含む)やいのちの安全教育を推進            ⑤ ヒヤリハット事例の検証と事故等の未然防止を徹底する。</p>
<p>2 これからを生きる子どもに合った学びの充実</p>	<p>① 「対話」を基本に「気づき」や「疑問」を大切にした子ども一人一人が主体的な学びを実感できる授業を実践し、学びあう。            ② 「知識・技能を習得」、「思考・判断・表現等を育成」、「学びに向かう力・人間性を涵養」できる場面を効果的に取り入れた単元の工夫            ③ 専門家と連携し、自立活動と各教科等との関連を意識した授業を展開する。            ④ 子どもの主体性を引き出すICT機器の有効活用の推進と実態に合わせた情報モラル・セキュリティ教育の充実            ⑤ これからを生きる子どもに合ったキャリア教育の充実と「職業・家庭」「職業」の充実</p>
<p>3 共につくる学校・地域社会</p>	<p>① 地域資源を活用した（地域の方が活躍、地域に貢献）体験的な学習の充実を図る。（地域が教室）            ② 学びあう、つながる地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習を推進する。            ③ 教育・福祉・医療関係機関との連携の強化と協働的な専門性の深化            ④ 子どもたちの学びの様子や学校の取り組みが伝わる情報発信の工夫。</p>
<p>4 Well-Being の実現</p>	<p>① 学校・家庭・地域における教育活動全体を通じた Well-Being の実現を目指す。            ② 当事者意識をもった服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図る。            ③ 幸せに働ける心理的安全性のある良好な職場環境づくりと、適切なワークライフバランスに向けた働き方改革を推進する。            ④ 大人も子どもも主体的な行動を促し、認め、挑戦する人を応援する支援。失敗したら「やり直し」ができる環境づくり。</p>